

# 長渕剛さん 声で激励

## 「寄り添い、語りかけたい」

### 被災者への思い ラジオに乗せ

「とんぼ」や「乾杯」で知られる歌手の長渕剛さん(54)＝写真＝が被災地に向けて週に1回放送しているラジオ番組「RUN FOR TOMORROW」が被災者の間で話題になっている。番組は「ラジオを通じて被災者に寄り添い、語りかけたい」と願う長渕さんとスタッフが自主的に制作をスタート。歌と詩の朗読などで励まされた被災者からは、「仲間と泣きながら聞いた」などと5000通を超える反響が寄せられている。(高沢剛史)



△番組を放送しているラジオ局▽  
FM青森、FM岩手、FM仙台、  
ふくしまFM、bay fm(千葉)、  
FM宮崎など

「私がなぜ生かされたのか。その意味を探したい。夢を持って生きたい」。5月30日の収録の際、長渕さんと電話で語り合った女性(18)はそう訴えた。女性は宮城県石巻市で被災し、母親と一緒に民家の屋根に登って津波をやり過ごした。しかし、波にのまれた祖母と弟は手をつないだまま遺体で発見され、曾祖母も祖父の腕の中で息を引き取ったという。

また、岩手県の漁師の家族からは、「放送で励まされた父が『まげねえぞ、俺は』と言っていた」というメッセージも寄せられた。

3月11日は東京都目黒区の事務所にいた長渕さんは、地震の揺れや原発事故に恐怖を感じ、すぐに故郷の鹿児島県に「疎開」した。しかし、テレビで映し出される被災地の姿を見つめるうちに、20代の頃、コンサートのツアーで出会った東北地方の人たちを思い出し、支援を思い立ったという。ラジオ番組を始めたのは、被災者にとって身近なメディアだと考えたからだ。

約1時間の番組内では、自作の散文詩を読み上げた後、被災地で活動する自衛隊員らをねぎらったりしている。4月16日には、買集めた約1000個のラジオを宮城県気仙沼市の避難所に寄贈した。

4月上旬に始まった番組は当初、岩手、宮城、福島県など東北・関東地方の10局のみの放送だったが、次々に放送してくれる局が増え、今月中旬には北海道から沖縄まで全国23局にまで広がる。

長渕さんは、「震災は人間に無力さを突き付けたが、大事な人と寄り添いたい」という気持ちも育てた。目の前にあるマイクが、ラジオの向こうで聞いている被災者だと思っただけで語りかけている」と話している。番組は、過去に放送された回も含め

収録で、長渕さんが「10代のエネルギーは宝だと思おう。微力だが、何か歌を贈りたい」と呼びかけると、女性は、母が弟の子守歌として好んで聞かせていた「上を向いて歩こう」をリクエスト。長渕さんは、自分で歌った坂本九さんのこの曲を流した。

長渕さんは、「震災は人間に無力さを突き付けたが、大事な人と寄り添いたい」という気持ちも育てた。目の前にあるマイクが、ラジオの向こうで聞いている被災者だと思っただけで語りかけている」と話している。番組は、過去に放送された回も含め

て、長渕さんの公式ウェブサイトでも聞くことができる。アドレスは<http://www.nagabuchi.or.jp/>